



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	5. 連携チーム：学内他機関との連携強化とその課題
Author(s)	春名, 恭太郎; 芦澤, 万里音; 下川, 千尋 他
Relation	北海道大学ピアサポート活動報告書（平成29年度版）p. 47-51
Issue Date	2018
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/69394
Type	report
File Information	eersupport_5.pdf



5. 連携チーム

—学内他機関との連携強化とその課題—

春名恭太郎¹・芦澤万里音²・下川千尋³・西岡尚樹⁴

1. 連携チームについて

連携チームは、今年度のピアサポート室の活動目標の一つである「学内他機関や他大学とつながる」を踏まえて設置された。

連携チームの活動目的を今年度は、「北大の諸機関との連携を強め、インテーカー業務を充実させる」と設定した。インテーカーとは、カウンセリングの場で最初に相談者の話を聞き、相談者の情報を収集した上で必要な支援の提供や専門機関の紹介等を行う役割を指す。

北海道大学ピアサポート室においてピアサポーターに求められているのは、支援を必要としている、または必要と思われる学生に必要な支援を行う機関へつなぐ役割である。しかし現状では、ピアサポーターの北大に存在する学生支援機関についての知識が不足しており、学生を支援機関へとつなぐ体制が不十分であるといえる。

このため、昨年度に引き続き学内他機関との連携を強めるとともにインテーカー業務の充実を図るような活動を行うこととした。

2. 今年度の活動内容

2.1. 概要

活動目的の達成のため、支援機関へのあいさつ回りを行った。今年度は前期、後期に1回ずつ行った。ピアサポート室では何ができるのか、誰が利用できるかなどを相手先機関に連絡した。また、インテーカー業務充実のために相手先機関の活動内容も伺った。各機関の情報をピアサポート室利用学生に周知することもインテーカー業務の一環と考えられるため、各機関の広報ポスターやイベントの情報の提供も依頼した。ピアサポート室を使用した合同開催のイベントなどについても意見交流をすることとした。

2.2. 前期のあいさつ回りの内容

¹ 北海道大学文学部 4 年

² 北海道大学農学部 4 年

³ 北海道大学文学部 4 年

⁴ 北海道大学法学部 2 年

- ・北図書館

北図書館に文房具の貸し出し、館内での飲食に関する質問が来ることを伺い、ピアサポート室にて文房具の貸し出し、飲食可能であることを伝えた。

- ・学生ボランティア活動相談室

ボラカフェの広報ポスターを受け取った。

- ・留学生サポートデスク

留学生サポートデスク主催のイベントのポスターなどをもらった。留学生と日本人学生がお互いに仲良くなりたいという気持ちはあるが関わる機会がない、ということが問題としてあがったので、両者をつなぐようなイベントができれば、という話をした。

- ・ラーニングサポート室

専門的な勉強面の内容はラーニングサポート室に、経験を聞きたいときはピアサポート室に、という利用者の引き継ぎができるのではないかという話があがった。また、両室とも2年生以上の時間割例を利用者に向け用意している⁵。この時間割についても、全学部学科がそろい、広く学部学科を検討できるラーニングサポート室の時間割と、全学部学科はないが実際の経験を知ることができるピアサポート室の「とらのまき」とで、両者の役割分担をできるのではないかと話した。

- ・学生相談室

学生相談室で行っているカウンセリングは、保健センター2階でも同様の内容の支援を受けることができるため、学生相談室の混雑状況によってはそちらを案内することでもできると伺った。

- ・特別修学支援室

ピアサポート室での研修で、需要があれば講師を引き受けるなどといった連携ができれば、と伺った。ピアサポート室と支援室のどちらも利用している学生もあり、また新規ピアサポーター募集に関しても連携できると良いとのことであった。

⁵ 両者で時間割作成の方法に違いがあり、ラーニングサポート室は一般化した時間割を作成、ピアサポート室は学生にアンケートをとり、実際の時間割を入手し作成している

- ・附属図書館本館

附属図書館本館へは初めてあいさつ回りをしたため、主にピアサポート室の説明をした。また、イベント等で図書館本館のスペースを借用することが可能であることを確認した。

- ・キャリアセンター

キャリアセンターは就職活動をしている学生が主な利用者なので、もし就活で疲れている学生がいれば、協力できる可能性があると伝えた。

- ・保健センター

相互に相談者を引き継ぐような形での連携を今後とも行っていく旨を話した。

2.3. 後期のあいさつ回りの内容

- ・北図書館

前期の確認に加え、3年ほど前にピア室と北図書館で連携をして企画した実施した、ピアサポート室前の「少年よ、学部を選べ！ポスター展」について、現在北図書館は関与していないことを伺った。現在存在しない学科の情報や古い情報などもあるためピアサポート室で今後検討していく。

- ・学生ボランティア活動相談室

学生ボランティア活動相談室（ボラ室）では広報が課題であると同い、開室中にピアサポート室の一角を用いてボラ室を紹介する、出張ボラ室のような企画をしたいとの話をした。また、ボラ室のカフェ企画（ボラカフェ）とぴあかふえとのタイアップをできたら、という話もした。

- ・留学生サポートデスク

留学生は消費者トラブルや日本の生活の問題について、日本語が話せないためにこじれている場合が多く、そういった点を一部ピアサポート室に案内することがあるかもしれないとのことを伺った。また、相談が一番多い時間帯は18:00以降であるため、ピアサポート室もその時間の開室について検討してはかがかとの提案があった。

- ・ラーニングサポート室

ラーニングサポート室で作成している各学部の時間割例にサポーターの経験した声を寄せて欲しいとの依頼があり、実施をしました。例年、函館に行きたくないという理由で転部の相談に来る水産学部生や総合理系入試入学の学生がいるとのこと。函館から水産学部やその暮らしについての情報発信してもらえればという提案や冬の暮らし方について不安を持っている利用者に向け対応をして、プリントなど作っても良いのではと提案を伺った。

- ・学生相談室

学生相談室の相談員とサポーターが顔を合わせる機会が持てると良いのではとの提案に対し賛同していただいた。

- ・特別修学支援室

サポーター主催の研修等で、必要があれば支援室の教員や職員が講師となることも可能だということを伺った。

3. 他大学との交流

北星学園大学のピアサポート室の方から道内の大学にあるピアサポート組織をまとめ、北海道内の各大学でのピアサポート活動の充実・ピアサポーター同士の交流によるピアサポーターとしての資質向上を目的とした学生団体の設立についての提案があった。

主な内容は道内のピアサポート組織を巻き込んだ交流・合同研修を行える組織として企画・運営を行うとのこと。まだ詳細は決まっていないが、ぜひ北大ピアサポート室にも協力を頂きたいとのことで、前向きに検討を推し進めている。

4. 今年度の活動の反省と今後の展望

今年度はチームメンバーが学部4年生3名、2年生1名であり、卒業論文執筆等により活動できる時間の確保が難しかった。この状況は年度当初より把握できたため、学内諸機関へのあいさつ回り程度に限定して活動を行うこととした。

あいさつ回りについては、前後期に1回ずつ行いピアサポート室と相手先機関とで活動内容等の情報交換を行うことが出来た。しかし、合同でイベントを企画すること等はできなかった。また、ピアサポーター内で学内他機関の情報共有をすることも十分にできたとはいえない。

そのため学内他機関との連携強化、それによるインターカー業務の充実を図ることをチーム活動の目的としていたが、達成できたとはいえない活動内容となった。

来年度は、学内他機関との情報交換を行う頻度を今年度より高め、利用者が必要としている支援を提供する機関を紹介できるよう努めていく必要がある。また、ピアサポーターに対し学内他機関の情報を伝える資料などを作成し、ピアサポーターそれぞれのインターカー業務充実をはかれるよう取り組む必要があるだろう。